



デジタルによる情報共有と民主化

国際社会経済研究所 (NECCグループ) 主任研究員



松永 統行

うな先駆的な技術を生かして、市民サービスに密着した市民サービスとして都市の機能に組み込むことにおいて、スロベニアは高い

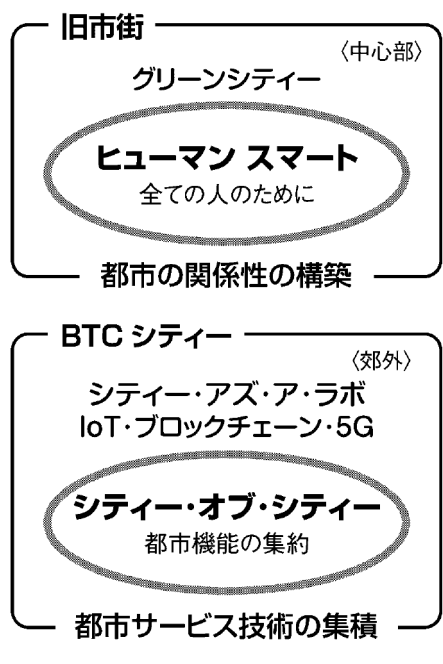
スロベニアは、イタラ技術の活用... リアやオーストリアに隣接し、欧州の交易や多様な文化の交差点に位置する。1991年に旧ユーゴスラビアから独立し、2004年にはEU加盟、旧ユーゴ諸国の中ではない早く民主的な体制を整えた人口約200万人の国である。情報環境が広がる中、EUは05年頃か

「旧市街」というコンセプトの下、中心部の旧市街を「グリーンシティ」として美しく整えた。目の不自由な人から老若男女までの全ての人のための美しい街づくりを徹している点が、技術主導のスマートシティとは異なる。

自由な動線

広場からは駐車場がなくなり、中央線のない道路には段差のない石畳が広がる。目抜き通りの郵便局の四つ角には信号機も横断歩道もなく、人が自

リュビユリヤナのスマートシティのコンセプト



イン、第5世代通信(5G)を活用した実証実験が行われている。

都市機能を集約

24時間利用可能な巨大なプールなど、都市のあらゆる機能を集約する「シティ・オブ・シティ」を掲げ、エネルギーやモビリティなど、次世代のスマートシティに関する多様なサービス技術の融合や共有の実証の場を海外にも提供す

自由な動線で行き交う。都市デザインの上、ボ」を掲げ、次世代の都市サービス技術の集積をより重視する。旧市街から約3キロ離れた場所に「BTCシティ」という商業、スポーツ、娯楽、ビジネスを集約した欧州最大級の施設群が造られ、IoTとブロックチェーンの知識がある。

「人間中心」の街づくり

(金曜日掲載)